

(様式1) 「別紙」 令和4年度 府立丹波支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階・実施段階)						
学校経営方針(中期経営目標)			前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 学校経営計画に基づく計画的・組織的・効率的経営の推進 2 地域・保護者の期待に応え、信頼を高める学校づくり 3 学校の安心・安全の推進 4 次の移行先に向けた系統的な教育課程の編成と、個別の指導計画に基づく授業の充実 5 希望進路の実現に向けての職業教育・進路指導の充実 6 特別支援教育の充実を目指し、教職員の専門性向上と他の教育機関、福祉・医療・労働機関等との連携の推進			【成果と課題】 〈組織・運営〉 ○遠隔会議の実施や教職員サイトの活用等がスムーズに行えるようになり、新しい生活様式が定着をした。 ○事務にかかる時間を短縮する努力をすることができた。 ▲人権意識の向上を図る必要がある。▲プレミアムフライデーの形骸化 〈教育課程・学習指導〉 ○研究部で外部講師から新学習指導要領についてや授業について講義を受けることにより新しい視点を得ることができた。 ▲安全に配慮した学習計画をたて、教職員の危険予測能力を高める必要がある。 〈地域連携〉 ○地域の小中高等学校のニーズに合った修学支援を行った。		1 小・中・高等部がつながりのある教育課程となるようにし、児童生徒の思考力・判断力を培う授業をテーマに授業改善を進める。 2 児童生徒の希望進路の実現と自立と社会参加にむけた力の育成に取り組む。そのために、教育カリキュラムを整理し今日的課題(18歳成人、性教育、人権、防災等)の学習を充実させる。 3 学校運営協議会を活用し、さらなる学校と地域の連携を図る。 4 働き方改革を引き続き学校全体で推し進め、残業時間の短縮化や業務改善を実現する。	
	評価領域	重点目標	具体的方策		評価	成果と課題
組織・運営	学校経営	業務内容やシステムの改革による勤務時間の適正化(事)	教員と事務職員の相互理解により効率的な事務システムの構築や業務内容の軽減化を図る。			
		働き方改革を進めることにより教育の質を高めながら生き生きと働くことのできる職場環境づくりを推進(運)	午後8時には完全退勤を実現化する。			
		学校運営協議会を生かし、学校と地域が連携して子ども達の豊かな成長を支援(運)	学校運営協議会を生かし、熟議を進めながら地域に開かれた教育課程の実現を図る。			
	専門性の向上	授業改善やよりよい生活づくり、系統的な指導の実施(研)	「単元を貫く問い」を意識し、単元や年間の目標を明確にしたり系統的な視点で授業(生活)を振り返ったりして次の実践に生かす。			
		校内研修を実施し、専門性の向上と圏域の指導力向上(自)	特別支援学校の教員としての専門性の向上を研修をとおして培う。			
	情報発信	Webサイト運用ガイドラインの見直し(公)	教職員に分かりやすいように作成する。			
教育課程・学習指導	学習指導	「社会に開かれた教育課程」の実現(教・学)	12年間の系統性や継続性を意識するために学部と全校で教育課程を検討する。			
		ICT利用の推進(教)	ICT機器が適切に運用されるよう「使用規定」を作成する。			
	生徒指導	学校生活や通学についての安全指導	十分な指導・引率体制のもとで児童生徒の安全を確立する。			
		予防的指導や家庭や学部・寄宿舎と連携した迅速な対応	情報モラルについて定期的に予防指導を行う。組織的な対応をめざし教職員向けフローチャートを作成し、活用する。			
	健康安全	感染症予防意識の徹底と全校をあげての予防対策	児童生徒や指導者に分かりやすいマニュアルの作成や見える形での啓発を行い、感染症予防を実施する。			
		起こりうる事故に対して全教職員が対応できる能力の育成	児童生徒事故傷病対応マニュアルの周知を図り、訓練を実施する。			
	進路指導	高等部生徒の実態把握と早期からの見通しをもった進路指導	修学支援部と連携し、実態把握と職員や保護者にむけて情報を発信する。			
	各部	授業改善、授業力の向上、系統的な教育課程の編成及び検証(小)	地域とのつながりを意識し、地域で豊かに生きていく児童を育成する教育実践を進める。 「日常生活の指導の指針」に沿った指導を進める。			
		中学部期の特徴を踏まえた教育課程の構築(中)	授業研、ケース研を通して、中学部期において「自ら考え行動する力」「相手とのコミュニケーションを通じて人間関係を結ぶ力」「豊かに生きる力」を身に付けるために必要な指導のあり方を検討する。			
		高等部教育を「青年期教育」と位置付け、豊かな社会生活を営むための教育課程の整理・構築(高)	全校の研究テーマとも関連させながら実践研究を行い、卒業生の姿からも学びながら青年期教育を深めていく。			
		担任との日常的な連携(自)	自立活動チェックリストのよりよい活用方法を検討する。			
		個々に応じた入舎のあり方についての検討(舎)	寄宿舎の入舎システムについて全校的な周知を図る。			
地域連携	地域支援	教育相談活動の一層の充実(地)	口丹地域府立学校特別教育研究協議会を充実させるため、企画・運営等に参加する。			
		地域の支援力の向上(地)	各校のニーズに応じた具体的な支援方法や事例研による障害特性を学ぶことができる研修会を実施する			
	修学支援	修学や生活の課題に対しての改善や解決(修)	学校や家庭での児童生徒の状況を把握し、生徒指導部や進路部、学部関係機関と連携したり、必要に応じてスクールカウンセラー等につないたりする。			

学校運営協議会 委員による評価	
--------------------	--

次年度への 改善の方向性	
-----------------	--

評価基準 A:十分達成できた。 B:ほぼ達成できた。 C:あまり達成できなかった。 D:ほとんど達成できていない。
()の略語 (運)運営会議 (事)事務部 (研)研究部 (広)広報部 (教)教務部 (学)学部 (生)生徒指導部 (保)保健給食部 (進)進路指導部 (小)小学部 (中)中学部 (高)高等部 (自)自立活動部 (舎)寄宿舎部 (地)地域支援部 (修)修学支援部